

南部町

第2期
まち・ひと・しごと
創生
総合戦略

Comprehensive
strategy

みんながつながり
達者に暮らす
笑顔あふれるまち

令和2年3月

青森県 南部町

目 次

序 章 策定にあたって

1 策定趣旨	1
2 全体構成	1

第1章 人口ビジョン

1 南部町における人口の現状と将来推計	2
1-(1) 人口の推移と将来推計	2
1-(2) 人口動態	3
1-(3) 社会動態	5
1-(4) 将来推計人口の推計	9
2 南部町における人口将来展望	14
2-(1) 目指すべき将来の方向	14
2-(2) 人口の将来展望	16
2-(3) 将来人口の推計	17
2-(4) 将来人口展望のまとめ	22
①南部町推計人口	24
②推計人口(パターン1・社人研推計)	25
③年齢3区分割合・高齢者1人を支える生産年齢人口・労働力人口	26

第2章 総合戦略

1 基本的な考え方	27
1-(1) 総合戦略の位置づけ	27
1-(2) 第1期総合戦略の成果・課題	28
1-(3) 計画対象期間	29
1-(4) 成果人口	29
1-(5) 県・市町村間の連携	29
2 まちづくりの基本理念	30
2-(1) 新たなまちづくりの考え方	30
2-(2) 南部町の将来像	30
2-(3) 基本目標	30
2-(4) 数値目標及び重要業績評価指標と期間	31
2-(5) 進行管理	31
3 基本目標と展開する施策	32
基本目標1 基幹産業である農業を中心に、若者の活躍の場を創造し産業振興を図る	32
基本目標2 地域と連携し子育てのしやすい環境の充実を図り定住を促進する	34
基本目標3 豊かな自然を活かしたグリーン・ツーリズムの継承と独自スタイルの観光・交流を拡大する	36
基本目標4 お年寄りや子どもにやさしい、安全・安心で魅力のある定住環境を構築する	38

序 章 策定にあたって

1 策定趣旨

国では、急激な少子高齢化に対応しつつ、人口減少に歯止めをかけ、東京圏への人口一極集中を是正するため、平成27年11月に「まち・ひと・しごと創生法（平成26年11月法律第136号）」を施行し、同年12月に5ヵ年の政府の施策の方向を提示した「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

当町においても、平成28年3月に国の計画を勘案して、「南部町人口ビジョン」（以下「人口ビジョン」という。）及び「南部町まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「第1期総合戦略」という。）を策定し、人口減少、地域産業の活性化及び住民の健康増進などに向けた施策の展開を図ってきたところです。

今回、第1期総合戦略の計画満了に伴い、国の策定方針及び計画を勘案し、第1期総合戦略を基本的に維持しつつ、これまでの成果や課題を踏まえ、「第2期南部町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定するものです。

2 全体構成

第2期南部町まち・ひと・しごと創生総合戦略は、第1章人口ビジョン、第2章第2期総合戦略（以下「総合戦略」という。）の2章構成とします。

第2期南部町まち・ひと・しごと創生総合戦略

第1章 人口ビジョン〔分析・提言〕

第2章 総合戦略〔基本目標値・重要業績評価指標（KPI）〕

(1) 人口ビジョン（第1章）

南部町における人口の現状を示し、人口課題について町民と認識を共有するとともに、今後取り組むべきまちづくりの方向性を見極め、人口動態^{※1}による増減をシミュレーションし、「将来人口」の推計を行います。

(2) 総合戦略（第2章）

人口ビジョンを踏まえ、南部町のまち・ひと・しごと創生の実効に向けた、今後5年間の基本目標や取り組むべき施策の基本的方向及び具体的な施策を示した基本計画とします。

※1 人口動態：一定期間の人口変動（自然動態（出生、死亡）、社会動態（転入、転出）などで構成される。）

第1章 人口ビジョン

1 南部町における人口の現状と将来推計

1 - (1) 人口の推移と将来推計

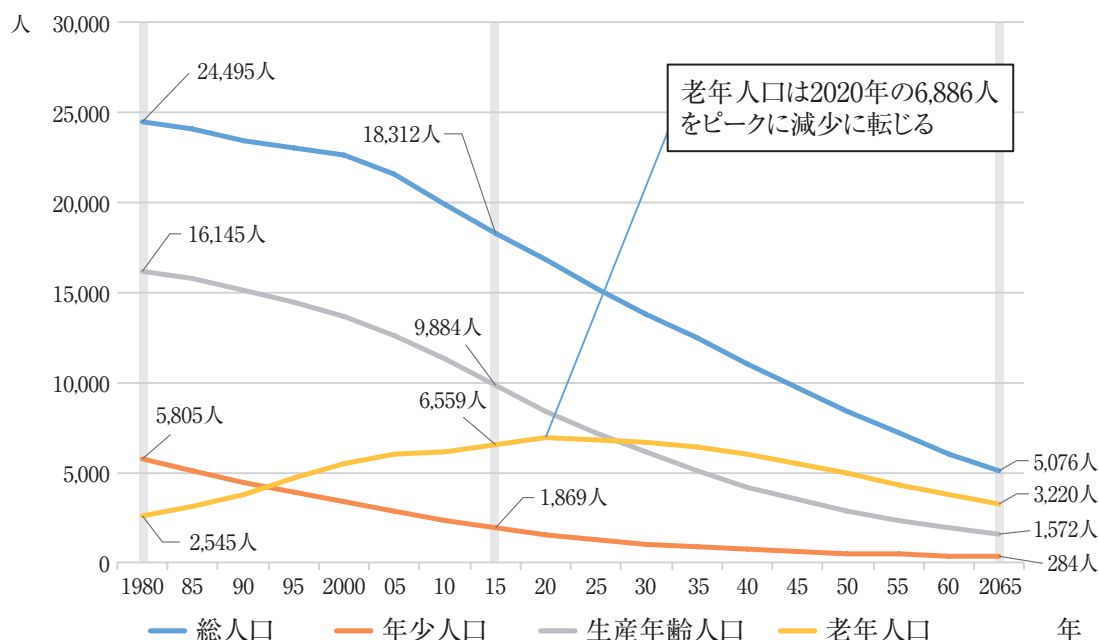
①総人口・年齢3区分人口推移と将来推計

図-1は南部町の総人口とその内訳を年齢層別に3区分したものです。

南部町の総人口は一貫して減少傾向にあります。1990年までは年少人口^{※2}の減少が最大の要因でしたが、それ以降は2015年で総人口の半数以上を占めている生産年齢人口^{※3}の減少の影響が大きくなっています。老年人口^{※4}は2020年までは増加しますが、それ以降は緩やかに減少すると見込まれます。

2030年以降は生産年齢人口が老年人口を下回る見通しで、2065年の高齢化率は63%となります。2065年の年少人口は284人で、1980年の5,805人と比較すると二十分の一以下になるものと推計されます。

図1 年齢3区分人口推移と将来推計(南部町)



総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」2018年推計
2015年までは「国勢調査」による実績値。2020年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」の推計に準拠して延長した推計値。

※2 年少人口：0～15歳未満の就業前人口となる年齢階層

※3 生産年齢人口：15～65歳未満の労働力の中核となる年齢階層

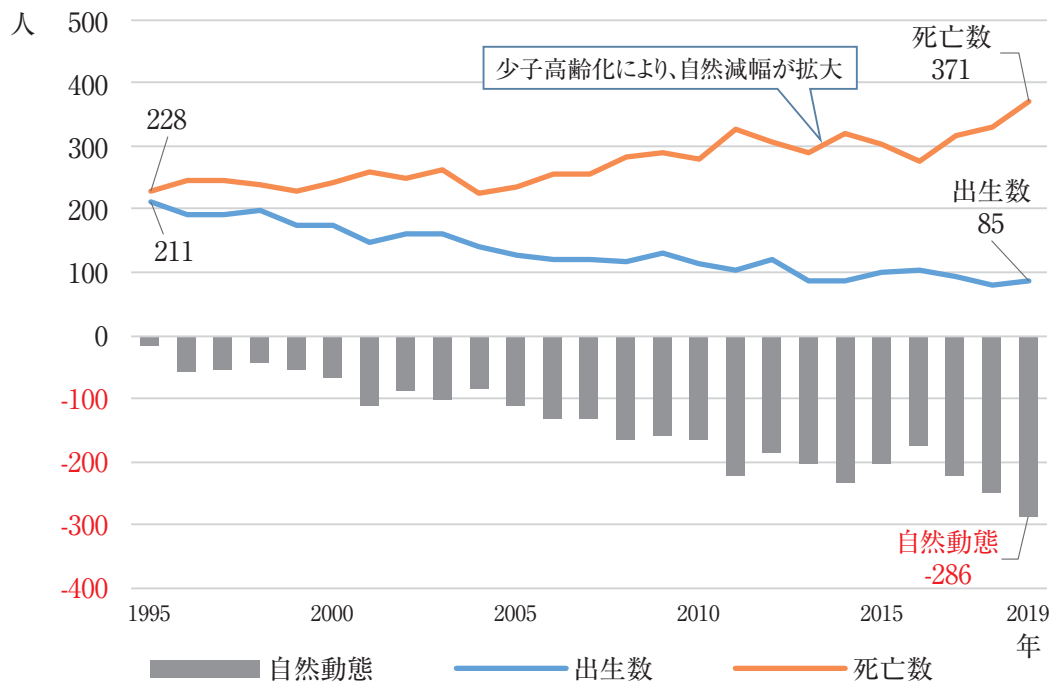
※4 老年人口：65歳以上の高齢者階層

1 - (2) 人口動態

①自然動態の推移

自然動態は死亡数が出生数を上回っています。近年その差が拡大しているため「自然減」数が大きくなっています。

図2 自然動態の推移(南部町)

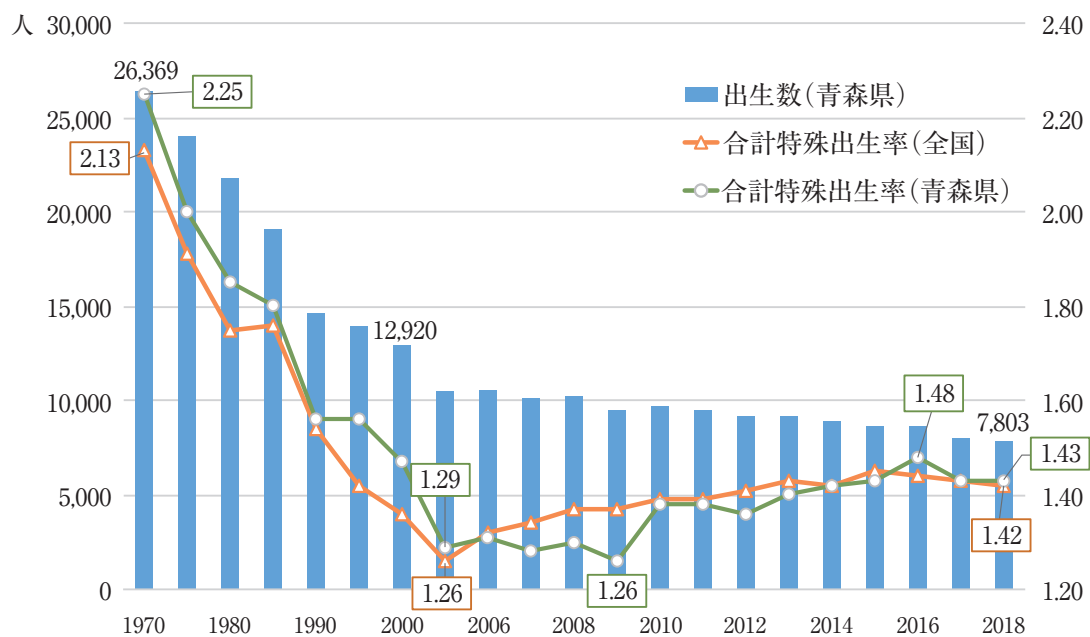


総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」
2005年までは合併前旧3町村の合計値。

②合計特殊出生率の推移

青森県の合計特殊出生率は2009年の最低値1.26から2016年の1.48まで上昇した後、若干低下していますが、2018年は1.43で全国の1.42を0.01ポイント上回っています。ただし、15～49歳女性人口が減少しているため、出生数は減少しています。

図3 出生数と合計特殊出生率の推移（青森県、全国）



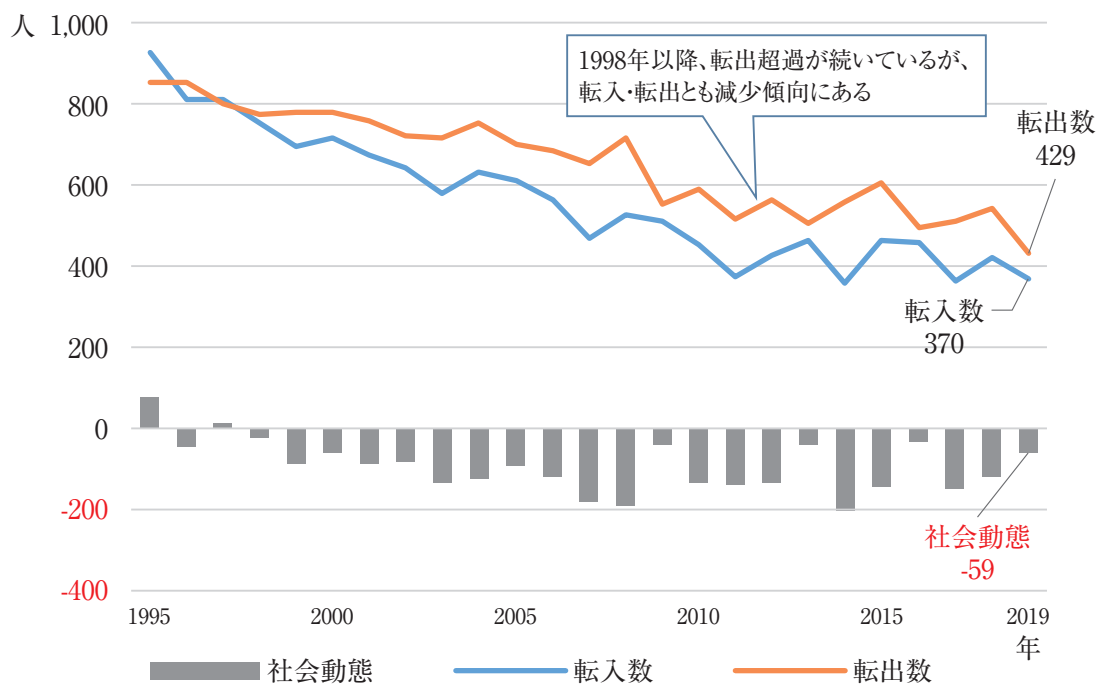
厚生労働省「人口動態統計」
2005年までは合併前旧3町の合計値。

1 - (3) 社会動態

① 社会動態の推移

社会動態は、1998年以降は転出数が転入数を上回る「社会減」の状態が続いていますが、転出数、転入数とも減少傾向となっています。

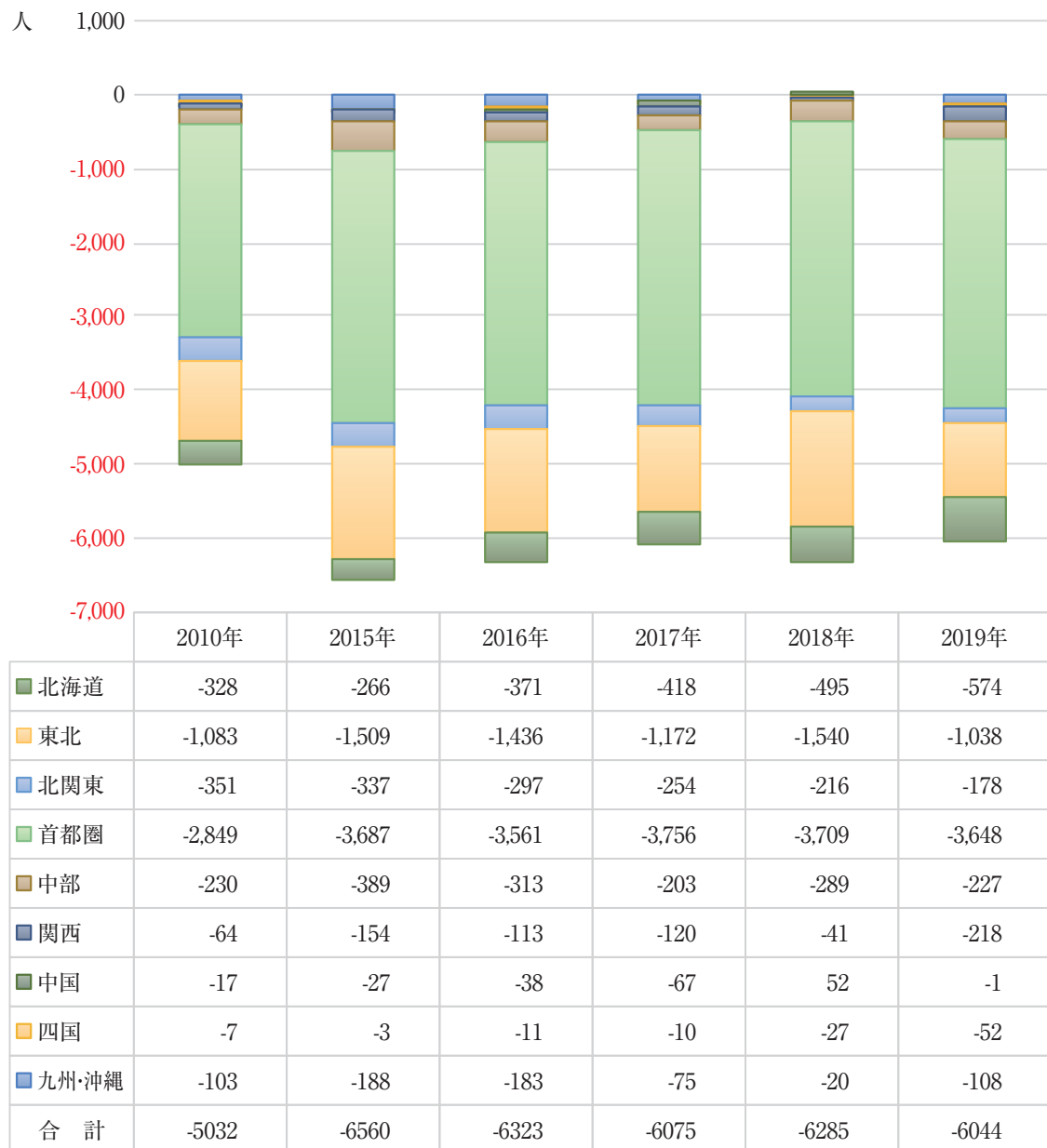
図4 社会動態の推移(南部町)



②地域ブロック別の人口移動状況

図は青森県民がどの地域ブロックに純流出^{※5}しているのかをあらわしたものです。首都圏への純流出数が最も大きく、東北ブロックがこれに次いでいます。

図5 地域ブロック別の人口移動状況(青森県)



総務省「住民基本台帳人口移動報告」(詳細集計)
男女、移動前の住所地別転入者数及び男女、移動後の住所地別転出者数

※5 純流出：転入－転出

2010年から2015年の5年間の南部町の転入・転出数では転出数が転入数を上回り純移動数はマイナス548人となります。

転入数では県内他市町村からが69%、他県からが29%、国外が2%となっています。

転出数では他県への割合が転入を8ポイント上回っています。

表1 南部町の転入・転出数と純移動数(2010年～2015年)

	転入数(人)	転出数(人)	純移動数(人)
県内他市町村	685 (69%)	959 (62%)	▲274 (▲50%)
他県	295 (29%)	586 (38%)	▲291 (▲53%)
国外	17 (2%)	0 (0%)	17 (3%)
総数	997	1,545	▲548

総務省「国勢調査」2015年 移動人口の男女・年齢等集計(人口の転出入状況)
()内は縦計に対する構成比。

男女別の純移動数では男性がマイナス327人、女性がマイナス221人と、男性のマイナス幅が大きくなっています。また、男性は県内他市町村と県外への純移動数がほぼ同数なのに対し、女性は県外への純移動数が県内他市町村への純移動数を上回っています。

図6 南部町の男女別純移動(2010年～2015年)

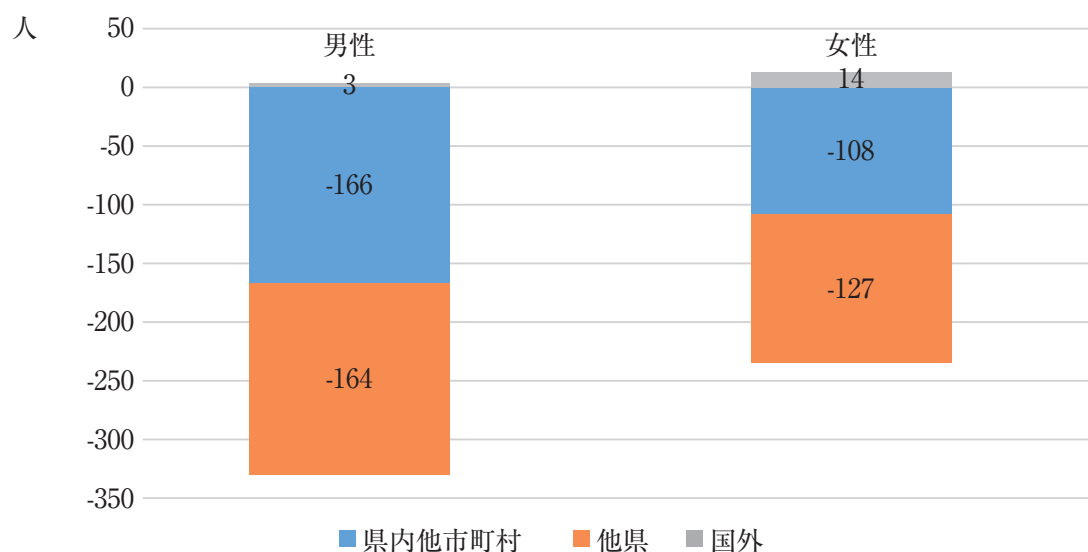


表-1と同じ

③年齢階級別の人口移動の推移(南部町)

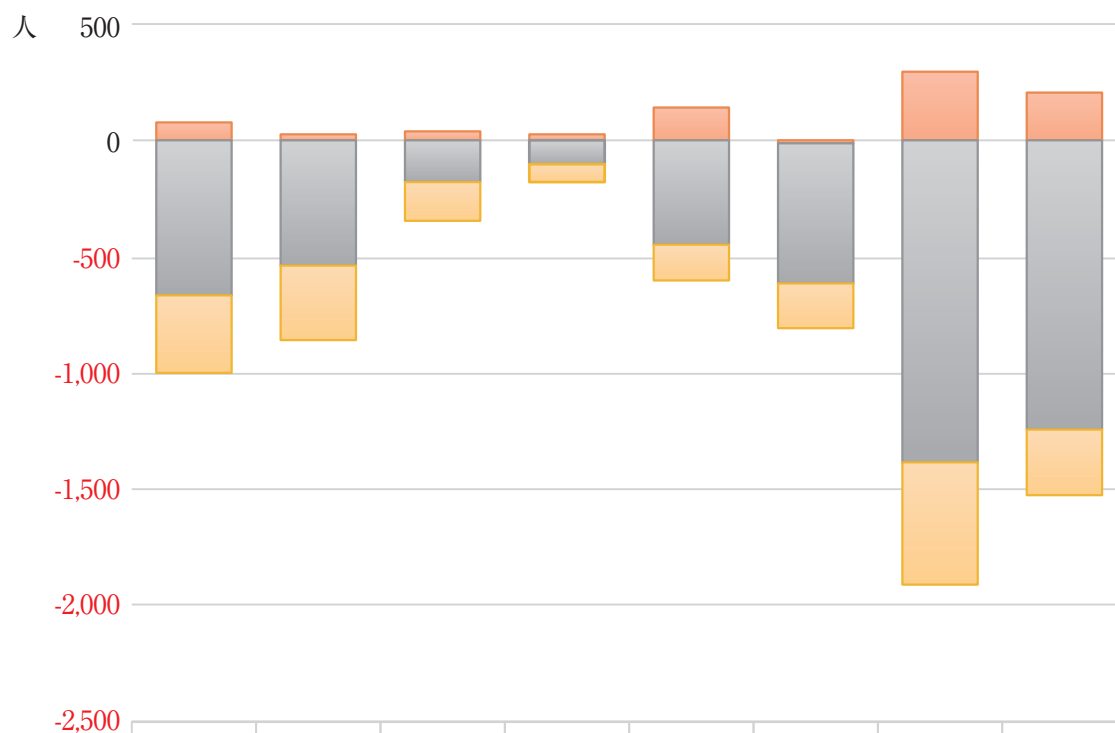
南部町では長期に渡り「社会減」の傾向が続いていますが、年少人口と生産年齢人口の転出超過が大きな要因となっています。

生産年齢人口は1980年から1990年のバブル経済期と2000年以降の景気回復期に大きく転出超過となっています。特に2010年以降は急激に増加しています。

これは基本的には首都圏の雇用情勢や都市部と地方圏の所得水準の格差などが影響したものと考えられます。

老年人口は2005年から2010年にかけて、わずかに転出超過になりましたが、基本的には転入超過が続いています。この背景には、近年町内に老人ホームなど高齢者福祉施設が数多く立地したことが挙げられます。

図7 年齢階級別人口移動推移(南部町)



	1980年 →1985年(人)	1985年 →1990年(人)	1990年 →1995年(人)	1995年 →2000年(人)	2000年 →2005年(人)	2005年 →2010年(人)	2010年 →2015年(人)	2015年 →2019年(人)
0～14歳	-334	-311	-165	-84	-161	-187	-531	-281
15～64歳	-666	-539	-175	-98	-442	-609	-1,376	-1,239
65歳以上	82	33	35	34	149	-6	299	-212
合 計	-918	-817	-305	-148	-454	-802	-1608	-1732

1 - (4) 将来推計人口の推計

これまでの人口動態の推移をもとに、南部町の将来の人口について推計します。
人口は自然動態と社会動態によって変化します。

ここでは、将来の人口に影響を及ぼす出生や移動の影響について分析していきます。

推計手法の概要

パターン1 (基本推計)

「国立社会保障・人口問題研究所」(以下「社人研」という。)[日本の地域別将来推計人口] 2018年推計(出生中位、死亡中位)に準拠して2065年まで延長したもの。

シミュレーション1

合計特殊出生率が2020年1.68、2025年1.89、2030年2.10と上昇し、以降2065年までその水準を維持すると仮定した推計。

シミュレーション2

シミュレーション1に加え、2020年以降移動均衡状態が2065年まで継続すると仮定した推計。



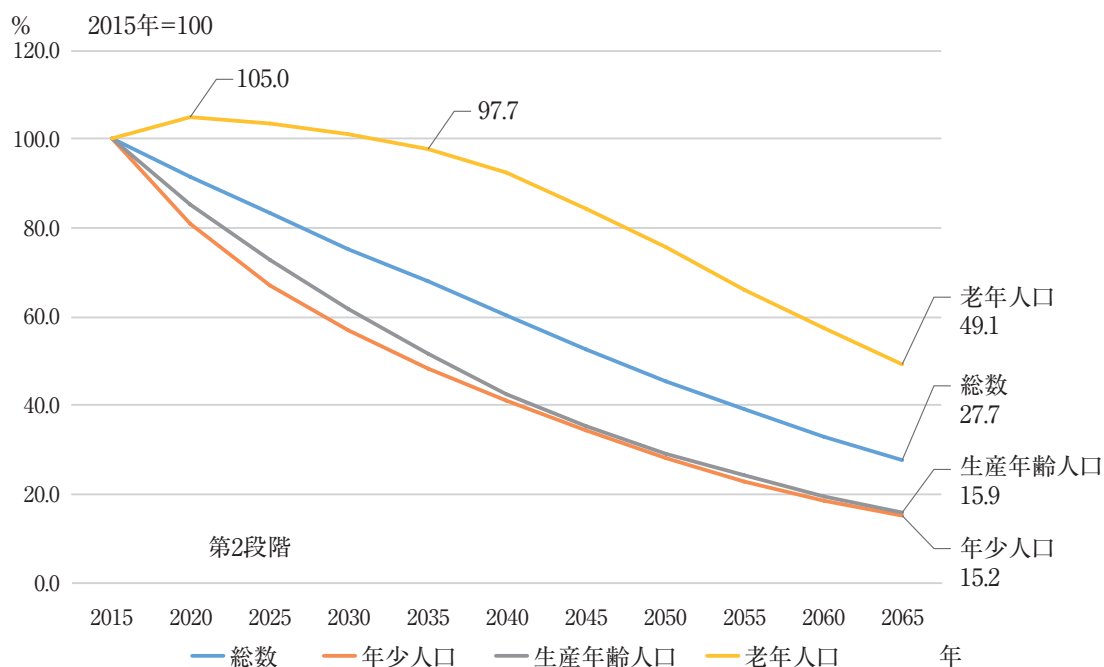
①パターン1による総人口、年齢3区分人口の指数変化

南部町では老年人口は2020年までは増加しますが、それ以降減少に転じることになります。老年指数が100を下回るのは2035年となります。それ以降は年少人口も老年人口も減少する人口減少の第3段階(最終段階)に移行することになります。

2065年では2015年を基準として指数化すると、総人口は27.7、年少人口は15.2、生産年齢人口は15.9、老年人口は49.1となります。

総人口が2015年の四分の一程度まで減少するなかで、特に年少人口と生産年齢人口の減少が際立つこととなります。

図8 総人口、年齢3区分人口の指数変化



②パターン1とシミュレーション1による総人口の比較

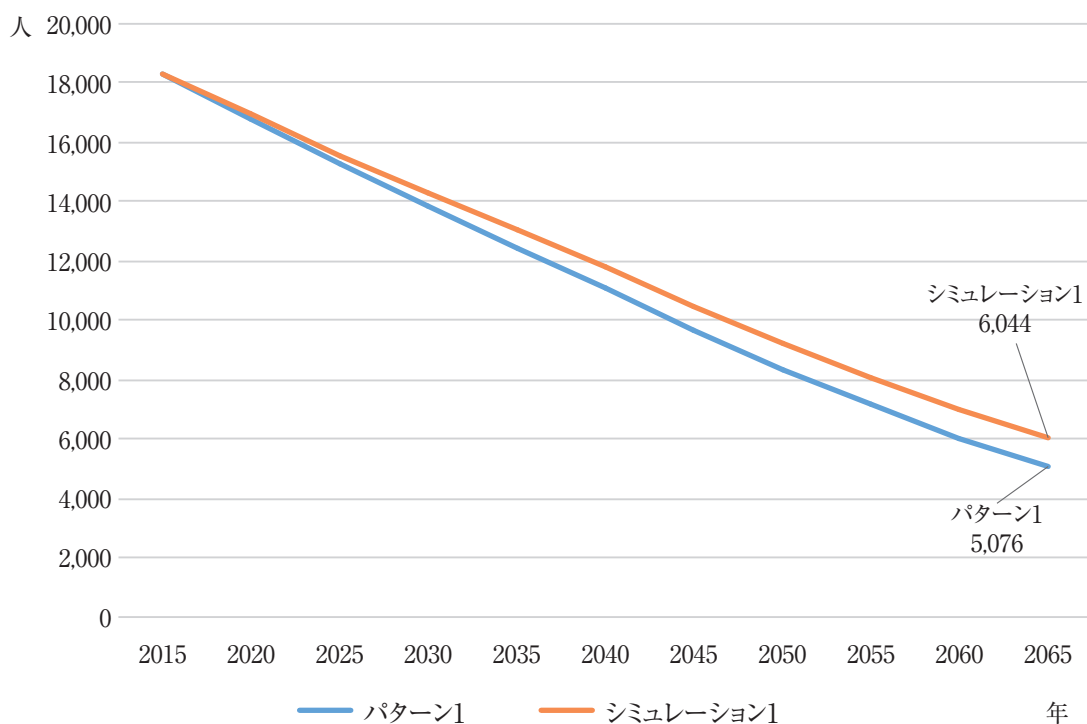
シミュレーション1は2020年以降、合計特殊出生率が上昇に転じ、2030年に人口置換水準^{※6}の2.1となり、以降この水準を維持するという仮定に基づいた推計です。

つまり、将来推計人口に対する自然動態変化の影響を図るものです。

2030年以降自然動態が均衡することで、2065年ではパターン1と比較して総人口は968人多くなる見込みとなります。

2065年の自然動態の影響度^{※7}は119%となります。

図9 パターン1とシミュレーション1による総人口の比較



※6 人口置換水準：人口が増加も減少もしない均衡した状態となる合計特殊出生率の水準

※7 自然動態の影響度 $(\text{シミュレーション1} \div \text{パターン1}) \times 100$

影響度が大きいほど効果が高くなることを意味する(図-9は自然動態均衡の効果)

③シミュレーション1とシミュレーション2による総人口の比較

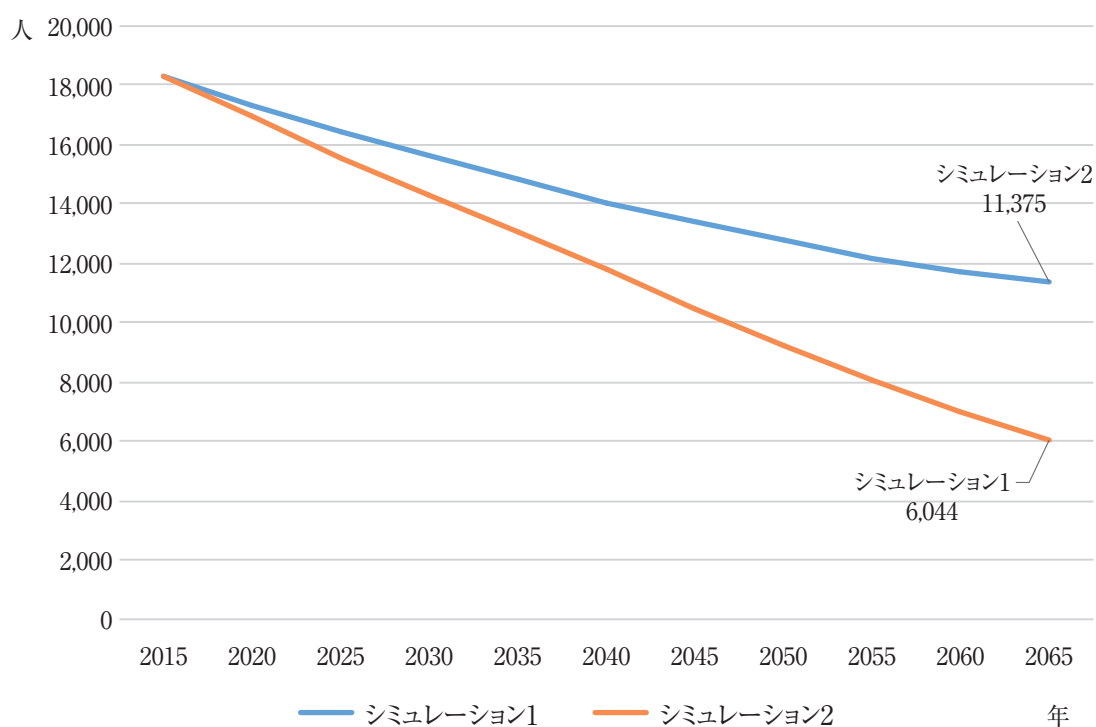
シミュレーション2はシミュレーション1の推計に加えて、2020年以降移動均衡状態が継続するという仮定による推計です。

つまり、自然動態に加えて社会動態の影響をコントロールしたシミュレーションとなります。

結果は2065年に南部町の総人口は11,375人となり、シミュレーション1と比較して5,331人、パターン1と比較すると6,299人増加することになります。

社会動態の影響度は188%となります。

図10 シミュレーション1とシミュレーション2による総人口の比較



④自然動態と社会動態の影響度

②と③の結果から、南部町の将来人口に対する影響度は社会動態が圧倒的に高いことが分かります。

このため、人口減少に歯止めをかけるためには、自然減の縮小に取り組むと同時に、社会動態を均衡状態に近づける施策に取り組むことが有効であると考えられます。

今後、子どもを産む若い世代の女性人口が減少するため、合計特殊出生率の上昇だけでは効果が限定されます。まずは若い世代の転出抑制、転入促進に取り組むことで、合計特殊出生率上昇の効果が大きくなっていくことが想定されます。

⑤総人口・年齢区分別人口分析結果

これまでのシミュレーションで推計した数値の結果です。

パターン1とシミュレーション1では2065年には老年人口比率が50%を超えることになりませんが、シミュレーション2では30%程度となります。

逆に生産年齢人口比率は前者では30%台となりますが、後者では50%を超えることになります。

表2 総人口・年齢区分別人口分析結果(南部町)

パターン1	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
総人口	18,312	16,808	15,276	13,819	12,423	11,051	9,668	8,363	7,157	6,055	5,076
年少人口比率	10.2%	9.0%	8.2%	7.7%	7.3%	7.0%	6.7%	6.3%	6.0%	5.7%	5.6%
生産年齢人口比率	54.0%	50.0%	47.2%	44.3%	41.1%	38.0%	36.0%	34.2%	33.3%	32.1%	31.0%
老年人口比率	35.8%	41.0%	44.6%	48.0%	51.6%	55.0%	57.3%	59.5%	60.7%	62.2%	63.4%
75歳以上人口比率	19.7%	22.2%	26.4%	30.8%	34.0%	37.0%	39.9%	42.7%	44.6%	46.4%	47.0%
シミュレーション1	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
総人口	18,312	16,939	15,583	14,328	13,090	11,808	10,484	9,218	8,048	6,983	6,044
年少人口比率	10.2%	9.7%	10.0%	11.0%	11.2%	11.2%	11.0%	10.9%	10.9%	11.1%	11.5%
生産年齢人口比率	54.0%	49.7%	46.3%	42.8%	39.9%	37.3%	36.1%	35.1%	35.1%	35.0%	35.2%
老年人口比率	35.8%	40.7%	43.7%	46.3%	49.0%	51.5%	52.8%	54.0%	54.0%	53.9%	53.3%
75歳以上人口比率	19.7%	22.0%	25.9%	29.7%	32.2%	34.6%	36.8%	38.7%	39.7%	40.3%	39.4%
シミュレーション2	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
総人口	18,312	17,351	16,417	15,597	14,821	14,058	13,374	12,752	12,193	11,723	11,375
年少人口比率	10.2%	9.7%	10.2%	11.9%	12.9%	13.8%	14.5%	15.1%	15.4%	15.6%	16.0%
生産年齢人口比率	54.0%	51.5%	49.7%	47.4%	46.1%	45.8%	46.8%	48.3%	50.8%	53.9%	54.1%
老年人口比率	35.8%	38.9%	40.1%	40.7%	41.0%	40.5%	38.7%	36.7%	33.8%	30.5%	29.8%
75歳以上人口比率	19.7%	20.9%	23.5%	25.9%	26.7%	26.7%	26.4%	25.6%	24.0%	22.1%	19.5%

2 南部町における人口将来展望

2 - (1) 目指すべき将来の方向

南部町は工業都市である八戸市に隣接し、経済圏も密接な関係にあり、良好な地域間連携を構築できる関係にあります。町の強みである果樹栽培とグリーン・ツーリズムによる農業観光の独自性を発信するとともに、南部藩発祥の地としての個性豊かな歴史的・伝統的文化資源、自然景観など、開発の可能性の高い資源を有しています。

平成29年3月に、八戸圏域連携中枢都市圏の形成に係る連携協約を締結し、圏域の一体的な発展を目指し、各種事業を連携して取り組んでいます。

また、産業では基幹産業である農業における後継者育成や地域特産物の開発・ブランド化の強化により付加価値を高めることで、就業の機会確保と経済基盤の安定につながっています。また、農業観光のインバウンド^{※8}の取り込みを強化し、特産品及びグリーン・ツーリズムの国際的な情報発信により交流人口のすそ野を広く開拓でき、受入態勢の整備を進めることで、農業活性化につなげています。

町独自の施策「達者村」の理念のもとに、南部町の住民が健康で充実した暮らしができるよう、医療・福祉や利便性の高い行政サービスを持続的に提供できるよう努めています。

こうした取り組みは南部町からの人口流出を食い止めるとともに、首都圏の住民に対しては南部町の自然豊かな安心できる暮らしの魅力を発信し、交流人口の拡大・定住の促進につながっています。

南部町の人口ビジョンのシミュレーション結果を分析すると、特に若者を取り込む施策が将来人口の維持・増加に対して効果的であるという結果になりました。この現状を踏まえ、時代変化に対応した町の持つ強みと地域資源を有効に活用し、高齢者への健康的な生活と若い世代への積極的な支援を進めるため、的確な施策の策定が必要となります。そこで、次の方向性を掲げていきます。

地域の観光資源を利用し、雇用環境を整備する

- 「グリーン・ツーリズムの町」として内外にPRすることで、観光客入込の増加を図り、観光関連産業により安定的な雇用の促進を図る。
- 観光と地域の歴史を取り入れた旅行プランを開発することで、南部町に親しみ、定住に向けた気運を醸成する。
- 基幹産業である農業の後継者を育成し、技術の保護と継承を図る。
- 農業の6次産業化、およびブランド化を推進し、海外においても通用する高品質な特産品の開発を促進する。
- 工業都市・港湾都市の八戸市に隣接をしている強みを活かし、起業を促進する。

※8 インバウンド：外国人の訪日旅行のこと。

八戸圏域を意識した住宅環境を整備する

- 八戸市を中心とした圏域で、ベッドタウンとしての機能を果たしていく。
- 充実した行政サービスを維持・提供できるように、住宅整備エリアを計画的に展開する。
- 週末に南部町で暮らし、自然と親しむ生活を提案するなど、多様なライフスタイルの提供ができるよう、受け入れ態勢を充実させる。
- 安全・安心な暮らしを守れるよう、河川や道路などインフラの保守・整備を促進する。

教育や子育ての環境を整備し、子育て世代の移住・定住を促進する

- 子育て世代をターゲットとし、ニーズに対応した住環境を整備する。
- 子育てニーズの多様化に対応するため、経済的な支援以外にも教育や養育に係る負担軽減の支援を検討する。
- 子育てしやすい町として、広域的なPRにより、移住・定住の促進を図る。

高齢者の活力を維持し、活躍の場を提供する

- 「達者村」の理念を継承し、高齢者の就労やコミュニティ形成などの支援を図る。
- 健康に対する啓発活動を推進し、健康増進への取り組みを強化する。
- 福祉・医療の連携により、高齢者の健康維持を効果的に推進する。



ずっとこの街 南部町。

チェリータウン桜場



2 - (2) 人口の将来展望

まち・ひと・しごと創生本部による「まち・ひと・しごと創生長期人口ビジョン」(令和元年改訂版)では、全国の合計特殊出生率が2030年に1.8程度、2040年に2.07程度まで上昇し、かつ2040年までに移動が均衡することを仮定して人口の長期展望を行っています。

青森県長期人口ビジョン(2020年1月23日現在未定稿)では

- ① 合計特殊出生率は、国の長期ビジョン(2019年12月20日閣議決定)と同様、2030年には1.8、2040年に2.07まで上昇する。
- ② 平均寿命は、2040年に全国平均(国の長期ビジョンでの想定値:男性83.27歳、女性89.63歳)並みとなる。
- ③ 社会増減は、2020年以降に社会減が縮小し始め、2045年に移動均衡に達することを前提として、本県の人口が2080年以降約72万人程度で安定するとしています。

これらを踏まえて、南部町では以下の仮定の下に将来人口推計を行います。

仮 定

- ① 合計特殊出生率は国、県と同様に2030年には1.8、2040年に人口置換水準である2.07まで上昇することとします。
- ② 社会動態は県と同様に2020年以降に社会減が縮小し始め、2045年に移動均衡に達することとします。



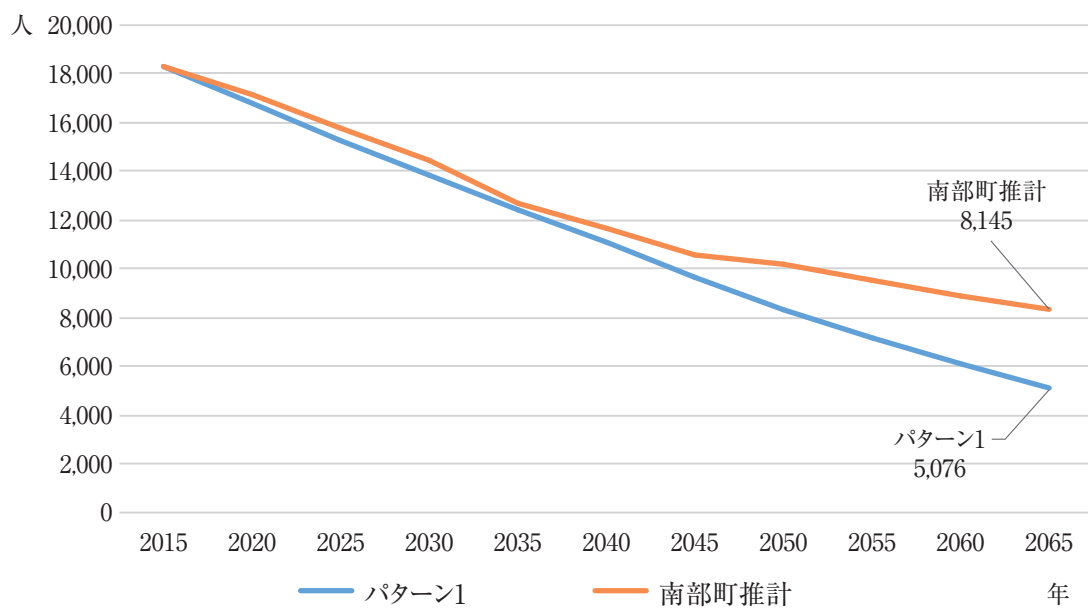
2 - (3) 将来人口の推計

①総人口

南部町による推計によれば、2065年の総人口は8,145人となり、パターン1と比較して3,069人多くなります。

今後の社会情勢を考慮し、将来展望に示した方向性に関わる施策を展開していくことで、人口減少に一定の歯止めがかかる可能性が高くなります。

図11 総人口の将来展望



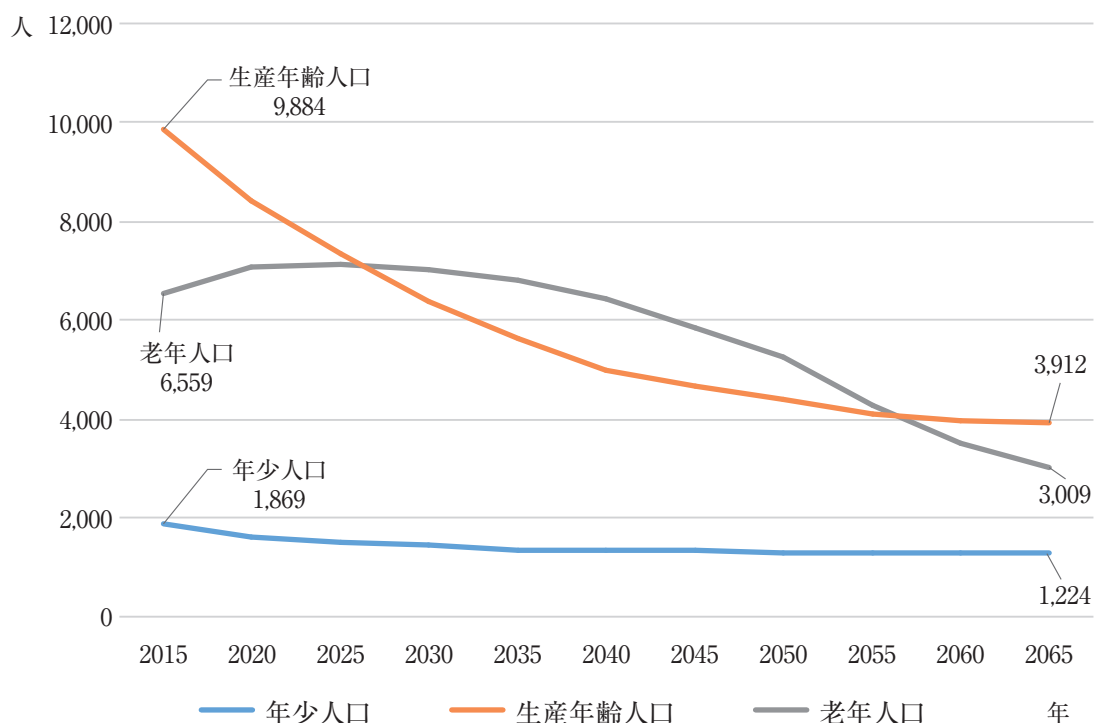
②年齢3区分人口推計

図は総人口を年齢階級で3区分した内訳です。2065年の総人口8,145人に対し、年少人口1,224人、生産年齢人口3,912人、老年人口3,009人となります。

2015年実績と比較すると、総人口はマイナス10,167人、年少人口はマイナス645人、生産年齢人口はマイナス5,972人、老年人口はマイナス3,550人となります。

パターン1の推計では、2065年では総人口5,076人に対し、年少人口284人(6%)、生産年齢人口1,572人(31%)、老年人口3,220人(63%)となり、年少人口と生産年齢人口の減少がかなり改善されることになります。

図12 年齢3区分人口推計



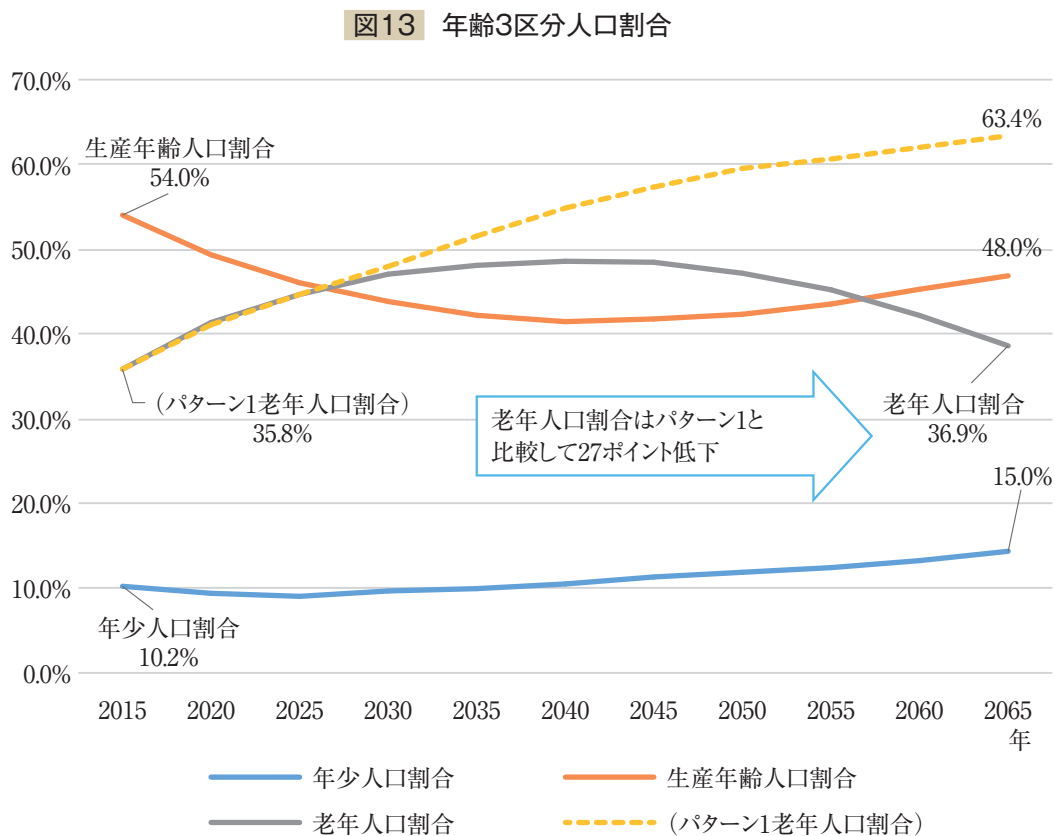
③年齢3区分人口割合

年少人口割合は2015年の10.2%から2025年の9.0%まで低下しますが、その後増加に転じ、2065年では15.0%となります。

生産年齢人口は2015年の54.0%からしばらく低下を続け、2040年の41.3%で底打ちします。2065年には48.0%まで上昇します。

老年人口割合は2015年の35.8%から上昇を続け、2040年に48.4%とピークを迎えます。その後は低下を続け、2065年には36.9%となります。

パターン1の2065年の老年人口割合と比較すると27ポイントほど低下することになります。



④高齢者1人当たりの生産年齢人口

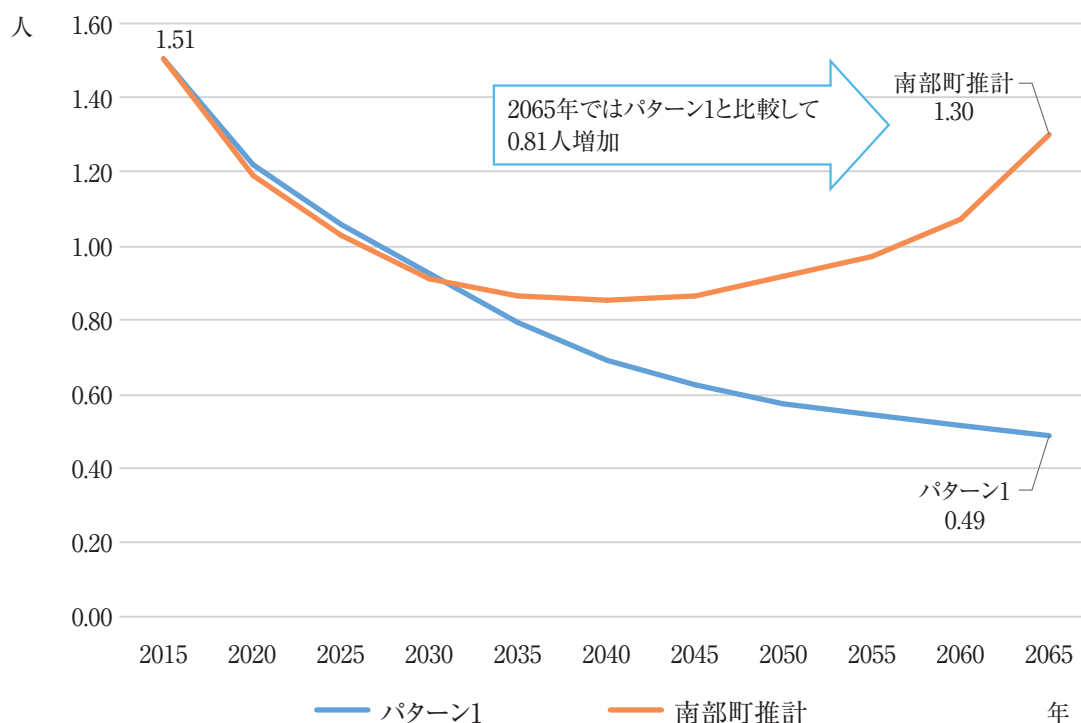
図14は高齢者1人を支える生産年齢人口を示したもので、1人の高齢者を何人の生産年齢人口で支えることになるのかを推計したものです。

2015年では1.51人で1人の高齢者を支えていましたが、パターン1ではその後、趨勢的に減少し、2065年には0.49人(老年人口が生産年齢人口のほぼ2倍)となるとされています。

南部町の推計も2030年まではほぼパターン1と同様のパターンとなりますが、その後、2040年の0.85で底を打ち、2065年では1.30まで上昇します。

パターン1と比較すると2065年時点で0.81人増加することになります。

図14 高齢者1人当たりの生産年齢人口

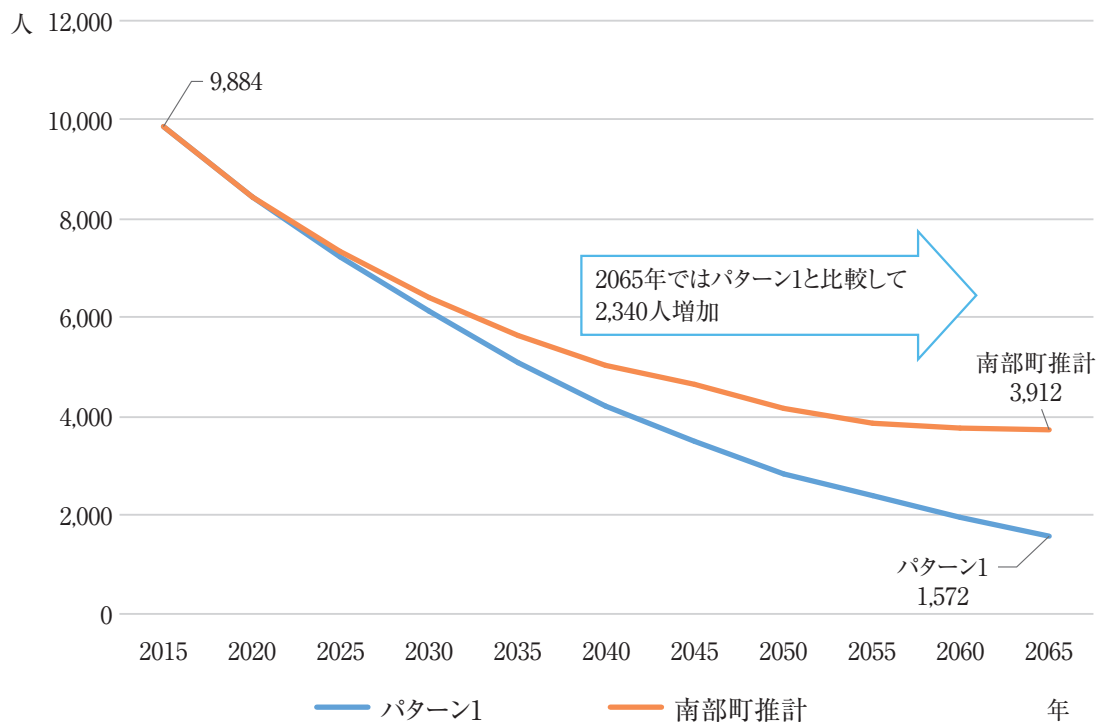


⑤労働力人口

図15は労働力人口(生産年齢人口)をパターン1と比較したものです。

パターン1も南部町推計も労働力人口は減少しますが、南部町推計では2030年ごろから減少のスピードが遅くなり、2065年ではパターン1の1,572人に対し、3,912人となり、減少を2,340人抑制する効果が期待できます。

図15 労働力人口推移



2 - (4) 将来人口展望のまとめ

町人口ビジョンは、施策による効果が着実に反映され、合計特殊出生率と移動率が仮定値のとおり改善されれば総人口は2045年（令和27年）には10,864人、2065年（令和47年）には8,145人となり、社人研推計と比較して3,069人の抑制効果が見込まれます。

総人口8,145人の内訳は、生産年齢人口が3,912人、老年人口が3,009人、年少人口が1,224人となり、総人口に対する影響が大きい生産年齢人口の減少抑制の効果として、2030年（令和12年）ごろから社人研推計との推移に差が生じはじめ、2065年（令和47年）社人研推計でマイナス13,236人に対して3,069人減少幅が縮小し、緩やかにくい止める効果が見えてきます。

年齢3区分を比率で比較すると、年少人口割合は2015年（平成27年）の10.2%から減少しますが、2035年（令和17年）ごろ増加をはじめ、2065年（令和47年）には15.0%まで増加が見込まれます。

生産年齢人口割合と老年人口割合は2025年（令和7年）にかけて45%付近で近づき、2030年には逆転します。生産年齢人口割合の減少は2040年に41.3%で底を打ち、老年人口割合は2040年の48.4%でピークから減少に転じて推移します。2065年（令和47年）には生産年齢人口割合が48.0%、老年人口割合が36.8%となります。一方、社人研推計では老年人口割合は2065年（令和47年）に63.4%となる推計で、本推計では2065年（令和47年）には、およそ26.6ポイント低下させる施策効果があらわれます。

高齢者1人を支える生産年齢人口は、本推計では2035年（令和17年）以降に推移に差が生じ始め施策効果があらわれていきます。社人研推計では2065年（令和47年）に0.49人となります。本推計では2040年（令和22年）に最低の0.85人と2065年（令和47年）には1.30人まで回復する見通しです。高齢者1人を支える生産年齢人口は0.81ポイント向上する施策効果が見込めることを示しています。

労働力人口を比較すると、2040年（令和22年）ごろから施策の効果があらわれ始め、2065年（令和47年）社人研推計で1,572人に対して本推計では3,912人と減少を2,340人に抑制する効果が示されています。

ポイント

●2065年推計

南部町の総人口は8,145人

●総人口の内訳

年少人口1,224人、生産年齢人口3,912人、老年人口3,009人

●老年人口割合

2040年に48.4%とピークを迎える。生産年齢人口構成比を上回るのは2030年、2060年には再び生産年齢人口を下回る。

2065年では老年人口割合36.8%、生産年齢人口割合48.0%となる。

●高齢者1人を支える生産年齢人口

2065年にパターン1の0.49人に対し、1.30人となり0.81人増加する。

●労働力人口

2065年にパターン1の1,572人に対し3,912人となり、減少を2,340人抑制する効果。

このように、人口ビジョンで仮定した値では南部町の人口減少に対し、歯止めをかけるのに一定の効果があることが示されました。

本推計の仮定が早期に実現出来るよう、効果と効率の高い施策を反映させた総合戦略を策定し、行政はもとより企業や町民等が一丸となって取り組んでいくことが重要です。



①南部町推計人口

男女計	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
総数	18,312	16,850	15,402	14,117	12,958	11,861	10,864	10,042	9,309	8,671	8,145
0～4歳	478	447	421	406	403	410	402	403	407	409	408
5～9歳	614	500	464	433	413	407	409	402	403	407	409
10～14歳	777	606	495	460	430	411	406	409	401	403	407
15～19歳	796	623	510	436	423	413	411	405	409	401	403
20～24歳	522	452	408	378	360	386	412	410	405	409	401
25～29歳	598	540	463	416	383	363	385	412	410	404	408
30～34歳	756	575	522	452	409	379	362	385	411	409	403
35～39歳	836	725	556	510	444	405	378	361	384	410	408
40～44歳	1,030	824	716	550	506	441	403	377	359	382	408
45～49歳	1,150	1,016	814	708	545	502	439	401	374	357	380
50～54歳	1,232	1,141	1,008	807	702	540	497	434	397	371	354
55～59歳	1,331	1,203	1,117	988	792	690	533	490	428	391	366
60～64歳	1,633	1,314	1,186	1,099	970	777	675	521	480	419	383
65～69歳	1,666	1,579	1,272	1,148	1,065	940	752	654	505	466	406
70～74歳	1,281	1,575	1,497	1,208	1,092	1,015	896	717	623	482	445
75～79歳	1,161	1,145	1,417	1,361	1,105	1,006	943	832	664	578	447
80～84歳	1,189	976	971	1,214	1,182	969	889	835	736	587	510
85～89歳	810	959	788	782	978	959	786	721	679	597	475
90歳以上	452	653	778	761	754	848	885	873	833	791	726
(再掲)0～14歳	1,869	1,553	1,380	1,299	1,246	1,228	1,217	1,214	1,212	1,219	1,224
(再掲)15～64歳	9,884	8,411	7,298	6,343	5,535	4,896	4,496	4,196	4,057	3,953	3,912
(再掲)65歳以上	6,559	6,886	6,723	6,475	6,177	5,737	5,152	4,631	4,040	3,499	3,009
(再掲)75歳以上	3,612	3,732	3,954	4,119	4,020	3,782	3,503	3,260	2,912	2,552	2,158

※小数点以下を表示していないため、合計が一致しない項目があります。

②推計人口(パターン1・社人研推計)

男女計	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
総数	18,312	16,808	15,276	13,819	12,423	11,051	9,668	8,363	7,157	6,055	5,076
0～4歳	478	404	335	293	250	210	170	138	111	91	76
5～9歳	614	500	423	350	306	260	218	176	143	115	95
10～14歳	777	606	494	417	345	301	256	214	173	140	113
15～19歳	796	623	485	395	334	276	241	205	171	139	112
20～24歳	522	452	354	277	226	190	157	137	117	98	79
25～29歳	598	540	465	363	281	229	191	158	138	117	98
30～34歳	756	575	519	444	345	265	216	181	149	130	111
35～39歳	836	725	552	500	425	329	252	205	172	142	124
40～44歳	1,030	824	714	543	493	418	322	247	201	168	139
45～49歳	1,150	1,016	814	706	537	487	412	318	244	199	166
50～54歳	1,232	1,141	1,007	809	702	534	485	410	317	242	197
55～59歳	1,331	1,203	1,115	985	792	687	523	475	402	310	238
60～64歳	1,633	1,314	1,191	1,106	976	786	684	520	472	400	308
65～69歳	1,666	1,579	1,277	1,160	1,080	954	770	670	510	463	391
70～74歳	1,281	1,575	1,498	1,217	1,111	1,037	916	740	643	490	445
75～79歳	1,161	1,145	1,417	1,357	1,109	1,016	955	842	679	590	450
80～84歳	1,189	976	968	1,215	1,174	968	894	841	740	596	518
85～89歳	810	959	797	795	1,020	1,001	836	771	727	638	513
90歳以上	452	653	849	884	917	1,101	1,169	1,115	1,048	987	903
(再掲)0～14歳	1,869	1,510	1,252	1,061	901	772	644	528	427	347	284
(再掲)15～64歳	9,884	8,411	7,217	6,128	5,110	4,202	3,484	2,857	2,383	1,945	1,572
(再掲)65歳以上	6,559	6,886	6,807	6,630	6,411	6,077	5,540	4,978	4,347	3,763	3,220
(再掲)75歳以上	3,612	3,732	4,032	4,252	4,220	4,086	3,854	3,568	3,194	2,811	2,383

※小数点以下を表示していないため、合計が一致しない項目があります。

③年齢3区分割合

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
(パターン1)	35.8%	41.0%	44.6%	48.0%	51.6%	55.0%	57.3%	59.5%	60.7%	62.2%	63.4%
年少人口割合	10.2%	9.4%	9.3%	9.7%	9.9%	10.6%	11.2%	11.9%	12.5%	13.3%	14.2%
生産年齢人口割合	54.0%	49.3%	46.0%	43.0%	40.7%	39.2%	39.2%	40.0%	42.1%	44.4%	47.0%
老年人口割合	35.8%	41.3%	44.7%	47.3%	49.4%	50.3%	49.5%	48.1%	45.3%	42.3%	38.8%

高齢者1人を支える生産年齢人口

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
(パターン1)	1.51	1.22	1.06	0.92	0.80	0.69	0.63	0.57	0.55	0.52	0.49
南部町推計	1.51	1.19	1.03	0.91	0.82	0.78	0.79	0.83	0.93	1.05	1.21
比較	0.00	-0.03	-0.03	-0.02	0.03	0.09	0.16	0.26	0.38	0.53	0.72

労働力人口

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
(パターン1)	9,884	8,411	7,217	6,128	5,110	4,202	3,484	2,857	2,383	1,945	1,572
南部町推計	9,884	8,436	7,332	6,379	5,620	5,011	4,646	4,384	4,283	4,206	4,184
比較	0	25	115	250	510	808	1,162	1,527	1,901	2,261	2,612



第2章 総合戦略

1 基本的な考え方

1 - (1) 総合戦略の位置づけ

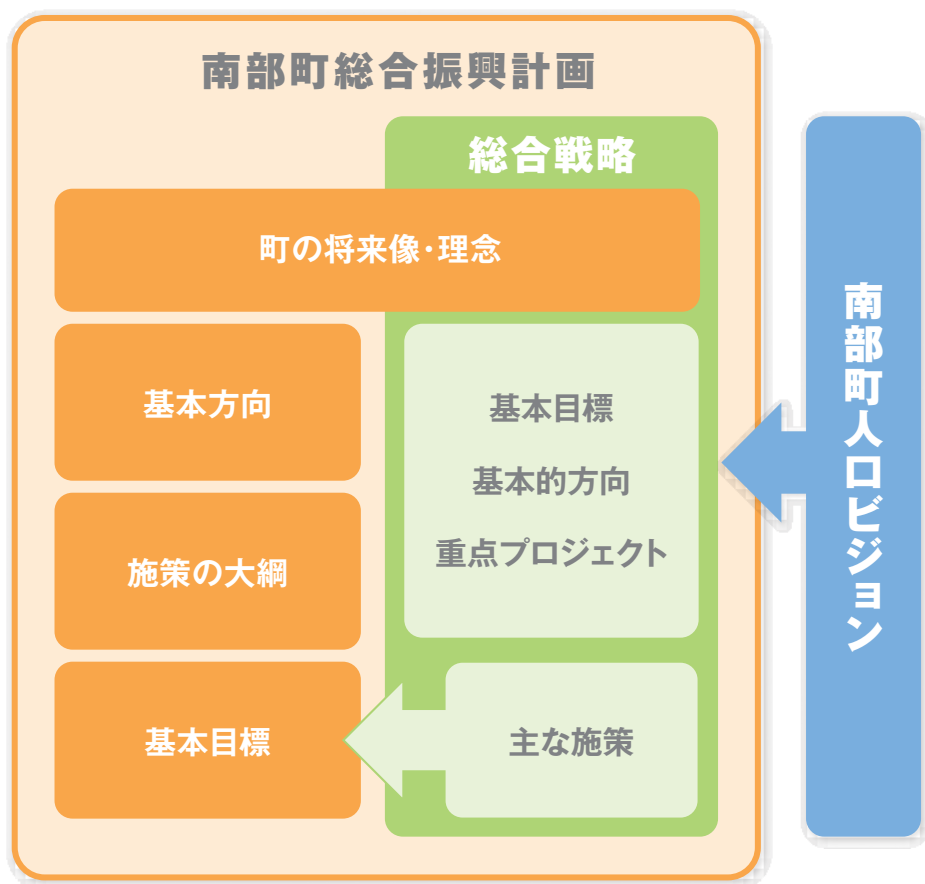
本総合戦略は、国が策定する第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に加えて青森県が策定する第2期「まち・ひと・しごと創生青森県総合戦略」を勘案し、南部町の人口推移と人口減少から生じる経済、地域社会の課題に対して一体的に取り組み、地域の将来を「人口」の視点から見つめ直し、南部町の「未来」を描くために策定するものです。

将来のあるべき姿を達成するためのアクションプランとして、南部町の実情に則した具体的な施策と目標を明確にしています。

また、本総合戦略は、平成29年度に策定された「第2次南部町総合振興計画」（以下、「振興計画」という。）の下位計画として位置づけます。

このため、本総合戦略では、まちづくりの「将来像」と「理念」を振興計画と共有し、振興計画の「基本目標」を達成するために本総合戦略の「主な施策」が具体的施策として作用する関係となっています。

図16 振興計画と総合戦略との関係



1 - (2) 第1期総合戦略の成果・課題

第1期総合戦略については、基本目標4項目、重要業績評価指標(KPI: Key Performance Indicator) 26項目の指標を設定しており、20項目については、目標達成見込みとなっています。

重点プロジェクト	達成見込	未達成見込
活力に満ちた産業振興プロジェクト	3	4
ちいき子育て支援プロジェクト	4	2
魅力ある達者村プロジェクト	5	2
いつまでも住みたいまちプロジェクト	8	2
計	20	10

重点プロジェクト別では、お年寄りや子どもにやさしい、安全・安心で魅力のある定住環境の構築を目標とした、「いつまでも住みたいまちプロジェクト」及び豊かな自然を活かしたグリーン・ツーリズムの継承と独自スタイル観光を目標とした「魅力ある達者村プロジェクト」においては、達成済みの指標が多くなっています。

また、基幹産業である農業を中心に、若者の活躍の場を創造し産業振興を図ることを目的とした「活力に満ちた産業振興プロジェクト」については、りんごの海外輸出・認定農業者数・買い物支援事業の利用者数など未達成の指標が多くなっていますが、達成見込項目に入っている各指標についても、概ね平成26年度の基準値を上回っています。

なお、出生率については、平成26年度の基準値を一度も上回ることなく推移していることから、引き続き、子育てのしやすい環境づくり及び結婚支援などの取り組みについて強化していく必要があります。

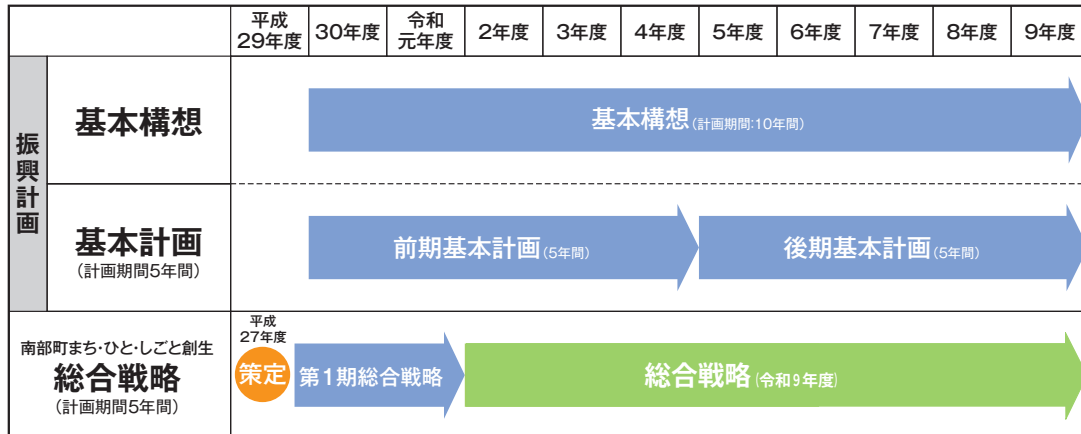


1 - (3) 計画対象期間

総合戦略における計画対象期間は、令和2年度から令和9年度までの8年間とします。

また、本総合戦略の策定に当たり振興計画を考慮して各種取り組みに反映させており、後期振興計画の策定においても、本総合戦略を考慮し、一貫性と実効性のある取り組みを目指します。

図17 振興計画との関係



1 - (4) 成果人口

第2期南部町人口ビジョンにおける人口の将来展望を踏まえ、計画期間内での取り組み成果として令和11年度(2030年)における人口を14,117人と見込みます。

1 - (5) 県・市町村間の連携

人口減少対策は、南部町のための課題ではなく全国に共通する課題です。そのため、本総合戦略の取り組みの効果を最大限に発揮するためにも、近隣市町村及び県との緊密な連携を図ることが重要になります。

南部町は、八戸市に隣接することから、文化的・経済的にも密接な関係があります。

平成29年3月に締結された「八戸圏域連携中枢都市圏」では、広域的な連携を实践する自治体の一つとして加わっており、積極的な取り組みが行われています。単独の自治体として確保することが困難な行政サービスや生活機能の補完と充実を図るとともに南部町ならではの魅力を発信することにより、圏域全体としての魅力を高める取り組みを進めます。また、青森県が促進する各種の取り組みについても積極的に連携・推進し、広域的な視点から豊かなまちづくりを進めます。

2 まちづくりの基本理念

2 - (1) 新たなまちづくりの考え方

将来的な人口減少や長寿化の中で、多様化する価値観やライフスタイルに対応しつつ、町民が住み続けられる持続可能なまちづくりを推進します。
また、町に住む人と訪れる人が安全・安心や幸せを実感し、未来に希望が持てるまちづくりを推進します。

2 - (2) 南部町の将来像

新たなまちづくりの基本理念のもとで、町民と目指すまちの姿を共有するとともに、南部町の魅力を広く発信していくために、将来像を以下のとおり定めます。

みんながつながり達者^{※9}に暮らす 笑顔あふれるまち 南部町

南部町には先人から受け継がれてきた歴史・文化、伝統、風習などが各地域に根付いています。これらは、まちでの暮らしを“達者”に営むための、いわゆる“南部町らしさ”につながっています。今後、まちの姿が変わっていく中でも、子や孫に“南部町らしさ”を引き継いでいくことで、世代や時代がつながっていきます。

南部町では、町民だけでなく、まちを訪れる人やまちを想うすべての人の心をつなぎ、まちにかかわる人の笑顔であふれるまちを目指し、南部町の強みを十分に活かし、まち・ひと・しごと創生の推進に取り組むべき施策の基本目標を次のとおり定めます。

2 - (3) 基本目標

- 1 基幹産業である農業を中心に、若者の活躍の場を創造し産業振興を図る。
- 2 地域と連携し、子育てのしやすい環境の充実を図り定住を促進する。
- 3 豊かな自然を活かしたグリーン・ツーリズムの継承と独自スタイルの観光・交流を拡大する。
- 4 お年寄りや子どもにやさしい、安全・安心で魅力のある定住環境を構築する。

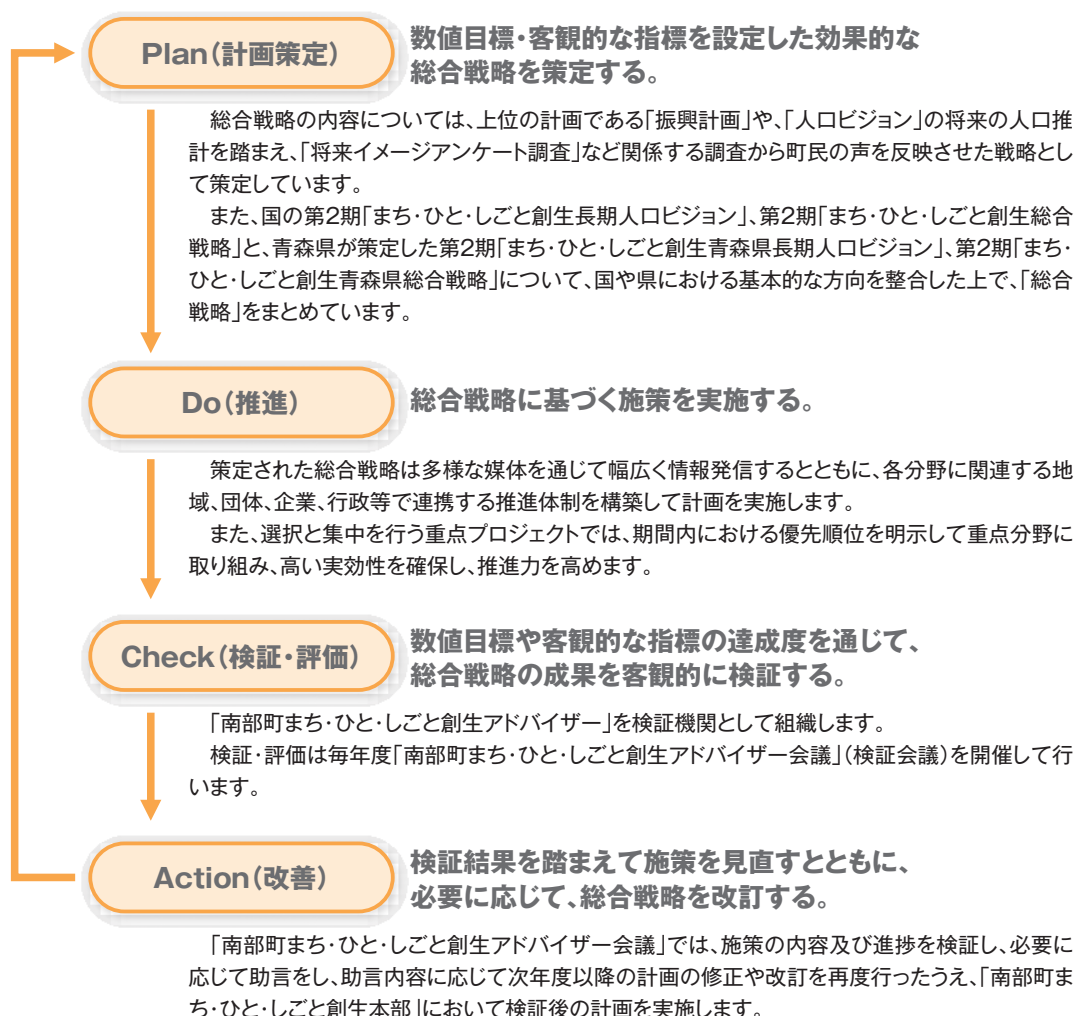
※9 達者：学問・技芸などの道に熟達している人。達人。物事に慣れていて、巧みなさま。からだが丈夫で健康なさま。

2 - (4) 数値目標及び重要業績評価指標と期間

4つの基本目標ごとに、8年後に実現すべき数値目標を設定し、施策ごとに、その進捗状況の検証に資する重要業績評価指標(KPI)を設定しています。

2 - (5) 進捗管理

本計画を着実に推進していくために、PDCAサイクルによるマネジメントを運用し、適切な進捗管理を実施します。また、社会情勢の変化や多様なニーズへ柔軟に対応することで、最大限の効果が発揮されるように努めます。



3 基本目標と展開する施策

「人口ビジョン」の将来展望等を踏まえ、本総合戦略における基本目標及び関係する基本的方向を以下のように策定します。

【基本目標1】

基幹産業である農業を中心に、 若者の活躍の場を創造し産業振興を図る

南部町では一次産業が基幹産業となっており、南部町の強みを活かし、独自性を発揮するために農業を中心とした産業振興が重要です。

また、近年若者の新規就農者も増えており、新たな農業に挑戦する人財（人は財産という考え方＝人材）と起業する人財を大切にし、次世代の南部町を創造する若者に活躍の場を提供します。

数値目標

指標	基準値 (H30)	目標値 (R9)
新規就農者数(累計)	60人	100人

施策と方向性 活かに満ちた産業振興プロジェクト

重要業績評価指標(KPI)と主な施策

(1) 主産業である農業基盤の強化を促進する

重要業績評価指標(KPI)	基準値 (H30)	目標値 (R9)
りんご海外輸出額	6,576千円	8,850千円
りんご海外輸出力	23t	30t
認定農業者数	170人	180人
担い手への農地利用集積率	42.1%	51.9%

① 農業所得、収益性の向上を図る

- ・首都圏在住の南部町出身者との連携
- ・海外輸出の支援強化

- ・特産物ブランド化の促進
- ・南部町特産物通販サイトなどECサイト※10等を活用した販売力の強化
- ・共同防除組織の支援・強化の継続

②農業の担い手を育成する

- ・新規就農者の支援の継続
- ・農業後継者の育成
- ・名久井農業高等学校との連携事業の推進

③就農者の収入の安定を図る

- ・農商工が連携した6次産業化による新商品開発
- ・水田営農確立事業の継続

④広域的な一次産業の振興を図る

- ・農業情報の提供を強化
- ・畜産業及び畜産関連産業の振興

(2) 町内の商工業の活性化を図る

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H30)	目標値 (R9)
買い物支援事業の利用者数	42人	60人
新規開業事務所数 (累計〔継承を除く〕)	7事業所	40事業所

①商工業の魅力を高め、積極的な情報発信を行う

- ・買い物不便地域への移動販売の実施
- ・他地域と連携したビジネスマッチングの実施

②企業支援策の充実及び起業者等の育成・強化を推進する

- ・起業家育成セミナーの開催及び情報提供
- ・起業者等の育成・支援の充実
- ・未利用町有地や空き施設活用の検討
- ・税制面や融資制度の優遇策検討

(3) 広域での就職先の確保を促進する

南部町から通勤可能な八戸圏域内の雇用情報の提供を図る



※10 ECサイト：インターネット上に置いた独自運営のウェブサイト

【基本目標2】

地域と連携し子育てのしやすい環境の充実を図り 定住を促進する

南部町では少子化が進んでおり、自然増加数を拡大して地域活力の維持を図る必要があります。

子育てのしやすい環境づくりのために、地域ぐるみで子育てを支援し、町外からの移住者の増加・定住を促進します。

数値目標

指標	基準値 (H30)	目標値 (R9)
出生率	4.9‰	4.5‰

施策と方向性 ちいき子育て支援プロジェクト

重要業績評価指標 (KPI) と主な施策

(1) 結婚・出産・子育てと「しごと」の両立を図る

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H30)	目標値 (R9)
延長保育年間利用者数 (実数)	194人	315人

① 仕事をしていても安心して子育てのできる環境を整備する

- ・保育サービスの充実
- ・放課後学童保育の充実

(2) 結婚・出産・子育てに関する不安・負担を軽減する

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H30)	目標値 (R9)
若年生活習慣病予防 健康診査異常率	70.7%	64.1%

① 子育てにおける不安の軽減を図る

- ・妊娠、出産における不安を軽減する
- ・子育て相談、子育て支援体制の充実
- ・ひとり親家庭の支援の充実

②子育てにおける経済的負担の軽減を図る

- ・高校生以下の子どもの医療費無料化の継続
- ・小中学生の給食費無料化の継続
- ・若者向けの住宅環境を整備
- ・奨学金制度の充実

③広域による子育て支援の充実

- ・ファミリーサポートセンター、子育て集いの広場、子育てサロンなど子育てコミュニティの広域的な運営

(3) 南部町の未来をつくる人財の育成を推進する

①南部町への愛着を育む、地域の特性を活かした学習プログラムの整備

- ・自然、歴史を活用した体験活動等による、地域への愛着醸成
- ・町内の小中学校のICTを活用した交流事業の検討
- ・名久井農業高等学校及び地域の大学との連携事業の推進



【基本目標3】

豊かな自然を活かしたグリーン・ツーリズムの継承と 独自スタイルの観光・交流を拡大する

豊かな自然環境を活かしたグリーン・ツーリズムは基幹産業である農業と密接に結び付き、南部町の大きな強みとなっています。

グリーン・ツーリズムを通じた人々の交流は、農業の発展と田園風景や景観の維持につながり、グリーン・ツーリズムを産業として発展させることにより、新たな担い手の確保が図られます。

また、南部町の歴史文化・観光資源を新たな視点から捉えなおし、多様なニーズに対応した独自スタイルの観光・交流を拡大します。

数値目標

指標	基準値 (H30)	目標値 (R9)
年間観光入込客数	850,716人	880,000人

施策と方向性 魅力ある達者村(体験・交流・滞在型観光)プロジェクト 重要業績評価指標(KPI)と主な施策

(1) 農業観光、グリーン・ツーリズムによる交流人口の拡大を図る。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H30)	目標値 (R9)
通年農業観光の来訪者数	84,339人	88,000人
農業体験修学旅行生の受け入れ者数	814人	900人
民泊受け入れ先の登録者数	29戸	32戸
外国人の民泊者数(累計)	63人	1,360人

① 通年農業観光事業の充実を図る

- ・ 農業観光と地域資源を融合させた新たな観光メニューの充実
- ・ 外国人観光客の受け入れ体制の強化を図る(ハラル^{※11}への対応等)
- ・ 横浜市栄区を対象とした都市との交流の検討

※11 ハラル：豚肉を食べたり飲酒を禁止するイスラム教の戒律のこと。

②農業体験等の受け入れ体制の強化を図る

- ・受け入れ農家の拡充
- ・受け入れ農家へのWi-Fi設備の設置
- ・大人数の受け入れのために周辺市町村と連携した広域的な対応の強化

③広域的な取り組みによる観光振興

- ・広域的な観光資源PRの強化

④地域公共交通の整備

- ・八戸圏域地域公共交通網形成計画の策定及び推進

(2) 滞在型観光から移住への促進を図る

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H30)	目標値 (R9)
空き家・空き地バンクの登録件数(累計)	11件	138件
お試し住宅の利用組数(累計)	5組	57組

①移住希望者へ向けた支援体制の強化を図る

- ・町のPR動画による情報発信の検討
- ・積極的な移住支援情報の発信の実施
- ・移住相談会など情報発信の強化

②移住希望者の受け入れ態勢の強化・充実を図る

- ・利用可能な空き家等の発掘に努め、空き家・空き地バンクへの登録強化・充実
- ・空き家を改修し、お試し滞在のできる施設の整備
- ・お試し滞在施設の活用を促進するための、モニターツアーの検討

③広域的な住民との交流・移住促進

- ・移住関連情報の発信強化
- ・移住相談窓口の整備



【基本目標4】

お年寄りや子どもにやさしい、安全・安心で魅力のある 定住環境を構築する

定住を決めるうえで、その地域に独自の魅力があり、安全・安心な暮らしができるかどうかは重要な問題です。

特に少子高齢化の時代に高齢者や子どもにとって快適な生活環境があるかどうかは、定住を促進し、人口減少を抑制する重要な要素となります。

基本目標

お年寄りや子どもにやさしい、安全・安心で魅力のある定住環境を整備し、八戸圏域市町村との連携を図る

数値目標

指標	基準値 (H30)	目標値 (R9)
特定健診受診率	46.5%	60.0%

施策と方向性 いつまでも住みたいまちプロジェクト

重要業績評価指標 (KPI) と主な施策

(1) 健康寿命を延ばす環境づくりの推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H30)	目標値 (R9)
メタボリックシンドロームの 該当者・予備群の該当率	29.6%	25.0%

① 町民一人ひとりの健康づくりの推進

- ・生活習慣病予防のため、特定健診受診者及び特定保健指導の拡大を推進
- ・こころの健康問題を抱えた人の早期発見・相談支援体制の充実
- ・保健・医療・福祉包括ケアシステムの充実と地域連携の強化

② 高齢者保健事業の推進

- ・高齢者の健康づくりの推進
- ・地域介護予防事業、訪問指導などによる介護予防の推進

③高齢者福祉の充実を図る

- ・高齢者が地域の中で活躍できる環境づくりの充実
- ・介護保険サービスの提供基盤の整備、確保
- ・高齢者の見守り体制の強化促進
- ・広域的な高齢者福祉合同研修会等の開催

④広域地域医療体制の充実

- ・ドクターカーによる救急医療体制の充実
- ・周産期医療体制の整備による母体・胎児や新生児への医療対応強化

⑤広域的な障がい者福祉の充実

- ・障がい者福祉合同研修会等の開催
- ・障がい者支援区分判定審査事務の共同実施

(2) いきいきして安全・安心なまちづくりの推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H30)	目標値 (R9)
自主防災組織の世帯カバー率	83.76%	89.46%
ポケットパーク数(累計)	0箇所	22箇所

①災害に強い地域づくり

- ・消防団、自主防災組織など、町民自らが地域を守る取り組みの推進
- ・災害時における各団体との連携体制づくり

②安全で快適な生活環境の整備

- ・コミュニティバス及び青い森鉄道による地域交通の利便性向上
- ・快適な住環境の推進を図るため、住宅の新築・リフォームの支援を継続
- ・町営住宅のバリアフリー化による、高齢者にやさしい住環境の整備
- ・移住、定住者向け住環境の推進
- ・地域住民が集まる公園の整備

③広域的な安心・安全への取り組み

- ・圏域内の他地域と連携し、自然環境を害する一般廃棄物の不法投棄を防止
- ・安全・安心情報発信事業の圏域拡大
- ・福祉避難所の設置及び圏域での相互利用の推進

(3) 協働によるまちづくりの推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H30)	目標値 (R9)
地域づくり計画の策定をした町内会数	8町内会	15町内会
笑顔あふれるまちづくり支援事業の実施団体数(累計)	14団体	100団体

① まちづくり団体等との連携による地域活性化

- ・まちづくり団体等との積極的な連携を図り、新たなアイデアが生み出される場づくりの提供
- ・大学や高校等と連携し、多様な学びの場の提供
- ・南部町の歴史・情報を発信し、活用を図る取り組みの推進
- ・地域住民が自らの地域のことを考える「地域づくり計画」の策定と事業の積極的な推進
- ・NPO等に係る各種情報提供支援体制の広域的な構築
- ・地域の人材育成及び掘り起こしの推進

② スポーツを通じた地域活性化

- ・スポーツイベントの参加者の拡充による町民の健康増進の充実
- ・地域資源を活用した新たなスポーツイベントの開催による地域活性化

③ 若者等による施策立案の実現

- ・若者等や子育て団体による施策の立案
- ・施策立案のための勉強会の開催
- ・役場と団体による懇話会等コミュニケーション組織の設置

④ 広域による教育環境の充実

- ・広域的な生涯学習に関する情報を提供
- ・広域的な体験学習の支援

⑤ 圏域マネジメント能力の強化

- ・行政職員の合同研修の開催
- ・学官連携地域シンクタンクの活用

(4) 関係人口の創出・拡大

① ふるさと納税及び企業版ふるさと納税の推進

- ・町のPRと返礼品等の充実

② 交流者受入れ支援の推進

- ・受け入れ体制の整備を図る
- ・受け入れ施策の立案

第2期南部町まち・ひと・しごと創生総合戦略

(2020年~2028年)

令和2年3月

令和3年2月一部改訂

令和5年3月一部改訂

令和7年1月一部改訂

発行／青森県三戸郡南部町

〒039-0592 青森県三戸郡南部町大字平字広場28-1

TEL:0178-76-2111（代表） FAX:0178-38-5974



町の鳥「うぐいす」



町の花「ぼたん」



町の木 赤松